

第3章	事業運営方針	3-1	施設全体の事業コンセプト
現状・課題		基本構想での位置づけ	調整方針 = 冊子になる部分
<p>・「図書館」「子育て支援センター」「三日市公民館」「市民会館」「ビジネス支援事業」が分立して運営されている。</p> <p>・第1回委員会(3/3)において、メインコンセプト「サードプレイス」について疑義が出たため再検討する。わかりやすい言葉としての日本語化について検討する必要がある。</p>		<p>基本構想“基本コンセプト” 『市民が集い学ぶ文化・交流の拠点』 図書館を核に、子育て支援や未来の黒部市を担う子どもたちの育成、まちの賑わいや活性化を推進するための交流促進や活動団体などへの支援、さらには生涯学習や情報の収集・発信・保存など市民の知的好奇心を満たす多機能を有する市民のための交流拠点づくりを基本コンセプトとする。 (構想 P15)</p>	<p><b>わたしの“サードプレイス”</b> ～家でも、学校や会社でもない、第3の居場所～ ①居心地の良い自分の居場所：気軽に寄れ、集える場所で、つい時間を忘れるくらい長く滞在でき、いつでも戻ってきたくなる場所 ②市民生活を豊かにする場所：「子育て」「結婚」「セカンドライフ」などライフステージに応じた問題解決に役立つ場所 ③自らの可能性に気づき、挑戦する舞台を探す場所：進路（進学・就業等）について探究する場所</p> <p>■ 「サードプレイス」について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初めて聞いた言葉であるが、違和感はない。</li> <li>2. 最初に違和感あったが、意外になじんでくるという気もする。</li> <li>3. 順番をつけるというニュアンスに違和感がある。</li> <li>4. わかりにくさもあるので、なんらかの説明・ルビがあるとよいのではないか。</li> <li>5. 海外の方に向けて「サード」は適切な用語か。</li> <li>6. 「文字」だけで注釈なくみたときにわかるかどうかは大事なポイント。</li> <li>7. 「学ぶ、楽しむ、集う私たちの自由空間」という言い方もありえるのではないか。</li> <li>8. 職場等とは別に同じ興味・関心の人々が集う場としての意味での納得感がある。</li> <li>9. 「サードプレイス」という言葉のシティプロモーション（自治体のPR）上の有効性はある。</li> <li>10. コンセプトはどうかであれ、施設が十分に機能すれば問題ないとも言える。いずれ実感されるはず。</li> <li>11. サードプレイスであるのと同時に、本来的には「ファーストプレイス」を目指すべきではないだろうか。</li> <li>12. さまざまな使い方のなかで「私を見つける場所」と言えるのでないか。</li> <li>13. 遅めの終業時間で働く人も利用できる場であってほしい（夜、開いている店舗等が少ない）。</li> <li>14. 「サード」という言葉の語感決して悪くないものにとらえたほうがいいのではないか。</li> <li>15. 実感としては宇奈月子育て支援センター（子連れにとってのアクセシビリティの高さ）が「サードプレイス」。言い換えるなら、「憩いの場」である。</li> </ol> <div data-bbox="1952 1220 2843 1501" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>●日本語化の検討（例） 第1回委員会での議論があり「サードプレイス」について再検討する。 例1：わたしの“居場所” 例2：わたしの“秘密基地” 例3：わたしの“探究場所” 例4：わたしの“隠れ家” 例5：わたしの“駆け込み寺”</p> </div>

第3章	事業運営方針	3-2	各施設の事業方針（図書館機能・施設全体）
現状・課題		基本構想での位置づけ	調整方針 = 冊子になる部分
<p>・現在、黒部市内在住、在勤、在学者のみに資料貸出券を発行している。今後、長期出張者、観光客、帰省関係者等、関係人口への対応も検討する必要がある。</p> <p>・図書館として「事業運営方針」は未策定</p>		<p>図書館に求められる機能として3点が挙げられている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 市民の文化力の向上に寄与する図書館</li> <li>2. 誰もが気軽に利用でき、憩いの場のある図書館</li> <li>3. 時代と共に成長する図書館（構想 P21-24）</li> </ol>	<p><b>『ライフステージ』をアシスト</b></p> <p>①市民生活を豊かにする「本・情報・知の拠点」として、人生の課題・問題の解決、進学・就業・子育てなど若年層の巣立ち、あるいは生涯学習・自己研鑽をアシストする。</p> <p>②「人と人」「人と本」「人と情報」を結ぶとともに、仲間探しや各世代の交流により、知恵袋の「人材図書館」として、互いに成長することから生まれる価値や創造、まちの賑わいや魅力づくりをアシストする。</p> <p>③誰もがいつでも気軽に行ける、また行きたくなる憩いの場所として、滞在したくなるイメージを醸し出し『わたしの“サードプレイス”』というコンセプトをもとに、萌え出る知的探求心をアシストする。</p>
			ワークショップでの議論
			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「図書館は核」となりうるのかという問いがある。多様なベクトルの違う施設が複合化するからこそ、その「核」の役割や要件はなんだろうか。そこをしっかりと問う必要がある。</li> <li>2. 複合施設であることのメリットをどう活かしていくか、各機能がどう連携していくか検討する必要がある。</li> <li>3. 黒部市に関わる物事を展示することで、郷土への関心を育むことができるのではないか。</li> <li>4. 宇奈月館の発展の方向性はどうなっていくのか。</li> </ol>

第3章	事業運営方針	3-2	② 各施設の事業方針（子育て支援機能）
現状・課題		基本構想での位置づけ	調整方針 = 冊子になる部分
<p>・現在、黒部子育て支援センターが、ショッピングセンター内で事業を行っている。</p> <p>今後、時代にあった子育てに関するニーズに対応していく必要がある。</p>		<p>子育て支援機能に求められる機能として1点が挙げられている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子育てに役立つ施設（構想 P25）</li> </ol>	<p><b>『子育て』をアシスト</b></p> <p>子育ての様々なシーンの相談機能を含めて、情報収集ができるとともに、市民参画のもと、子育てしやすい知恵の拠点としてアシストする。</p>
			ワークショップでの議論
			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 他地域での子育て支援施設の見学経験からすると、遊び場的な空間だけでなく、そこに図書館機能や飲食スペースがあることは欠かせないのではないか。</li> <li>2. 現行の子育て支援センターのように、子育て相談事業等が実現されるとよいのではないか。</li> <li>3. 子育て支援機能を活用する子育て世代が図書館も十分に使える環境を確保したほうがよいのではないか。具体的には、ファミリーサポートセンター（子どもの一時預かり）の機能が追加できれば、託児可能となり、この環境は実現できるのではないか。</li> <li>4. 子育て支援機能と子ども図書館機能をどう切り分け、利用のバッティングを避けるすみわけが実現できるか。</li> <li>5. 人工芝等による裸足で使える設えがあることが望ましいのではないか。</li> </ol>

第3章	事業運営方針	3-2	③ 各施設の事業方針（生涯学習機能）
現状・課題		基本構想での位置づけ	調整方針 = 冊子になる部分
<p>・現在、黒部市立三日市公民館で生涯学習に関する事業が行われている。</p> <p>今後、市民ニーズに対応した生涯学習支援を展開していく必要がある。</p>		<p>基本構想には、生涯学習支援に求められる機能として3点が挙げられている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 公民館活動</li> <li>2 女性・青少年活動</li> <li>3 シニア活動</li> </ol> <p>（構想 P26-28）</p>	<p><b>『生涯学習』をアシスト</b></p> <p>さまざまなライフステージに応じた活動を通して、人間性・道徳性を育み、豊かな人間発達の拠点として、市民の生涯学習をアシストする。</p>
			ワークショップでの議論
			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習室は多様なあり方が望ましいのではないか（個人学習、グループ学習、にぎやかな空間等）。</li> <li>2. 個々人が他人の迷惑にならない限り自由に過ごせつつ、同世代や多世代で相互に交流し支えあい助け合える（アシスト）空間であるとよいのではないか。</li> <li>3. 多様な使われ方をする空間だからこそ、適切なマナーやルールを明確にしておく必要があるのではないか。</li> <li>4. 三日市公民館の従来の地区コミュニティの拠点としての機能・役割がどのように変化するのは気になる。市民交流センターの意義は理解しつつも地区コミュニティの拠点としての使い方の維持は可能か（地区ごとの催し等を使う機会が保障されることは非常に大事）。例：運動会の後の反省会等。</li> </ol>

第3章	事業運営方針	3-2	④ 各施設の事業方針（市民活動支援機能）
現状・課題	基本構想での位置づけ	調整方針 =冊子になる部分	
<p>・現在、黒部市民会館、働く婦人の家等で市民活動に関する事業が行われている。</p> <p>今後、市民活動の状況をみながら市民活動支援を展開していく必要がある。</p>	<p>基本構想には、市民活動支援に求められる機能として1点が挙げられている。</p> <p>1. 市民活動支援（構想 P29-30）</p>	<p><b>『市民活動』をアシスト</b>  <b>市民が主体的にまちづくりに関わり、人々が交流し、新しい価値観を探求し、新しい文化の創造力・発信力、社会への適応力を育むなど市民活動をアシストする。</b></p>	<p>ワークショップでの議論</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>あらゆる市民活動のニーズを満たせるキャパシティが確保されることが望ましい。</li> <li>会議室運用のあり方は全フロアで調整を図る余地はないだろうか（利用実態に応じて柔軟に利用目的を随時変更する等）。</li> <li>ボランティア活動に支えられている背景を考えると、十分な調理環境・配食環境は重視したい。</li> <li>既存の活動団体の存在も考えると、各活動のバッティングを避けられるような配慮は欠かせない。</li> <li>多機能が同居する複合施設だからこそ、さまざまな利用形態を考慮した搬入口・動線計画が望まれる。</li> </ol>

第3章	事業運営方針	3-2	⑤ 各施設の事業方針（ビジネス支援機能）
現状・課題	基本構想での位置づけ	調整方針 =冊子になる部分	
<p>・現在、黒部市立図書館、黒部市民会館、働く婦人の家等でビジネス支援に関する事業が行われている。</p> <p>今後、市民ニーズや企業活動の動向をみながらビジネス支援を展開していく必要がある。</p>	<p>基本構想には、ビジネス支援に求められる機能として1点が挙げられている。</p> <p>1. ビジネス支援（構想 P30）</p>	<p><b>『ビジネス』をアシスト</b>  <b>学生のうちからあらゆる可能性を引き出し、市民の活躍の舞台にナビゲートする知恵袋の拠点として、関係機関連携のもと、進学・就業など巣立ちと成長に寄り添い、明日を切り開く力を育むなど青少年やビジネスをアシストする。</b></p>	<p>ワークショップでの議論</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>商工会議所で取り組んでいる事業も数多くあるので、これらのセミナーの展開も取り込んでいけないか（例：事業承継）。</li> <li>「起業」に限定するのではなく、いま最大の課題となっている「事業承継」を課題として設定したほうがよいのではないか。</li> <li>学生と働いている世代が知り合う機会があってもよいのではないか。</li> <li>資格試験対策の勉強のための図書館利用だけではなく、その際に資格講座が市民交流センターで開催され、受験者同士の交流も行われるとよいのではないか。</li> <li>学生のうちから大人になって生きるためのしきたり、マナー、生きる力を学ぶ機会があってもよいのではないか。</li> </ol>

第3章	事業運営方針	3-3	他機関との連携
現状・課題	基本構想での位置づけ	調整方針 =冊子になる部分	
<p>・「図書館」「三日市公民館」「市民会館」「働く婦人の家」がそれぞれ分立し、他の機関と連携しながらの事業を展開している。</p>	<p>・市役所庁舎やコラーレなど周辺施設との連携強化による機能分担が求められる（構想 P19）</p> <p>・市内外の他の施設との連携、ネットワークの構築により、新しいサービスの展開と利用者の新規開拓を推進する機能が求められる（構想 P23）</p>	<p><b>他機関との連携、組織間連携支援</b>  <b>市内等他機関との連携により、情報提供の一体感を醸成しながら、市役所やコラーレ等他組織との機能分担し、情報ライブラリー等の情報共有を図る。状況が整えば、他機関と合同で、プログラムを実施する。</b></p>	<p>ワークショップでの議論</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>子育て支援機能とファミリーサポートセンター（子どもの一時預かり）が連携すれば、市民は機能を超えて市民交流センターを活用できるのではないか。</li> <li>保育所、学校等とのつながりを、どのように作っていけばよいのか。</li> <li>連携の前提としてのさまざまな活動や団体、店舗等の情報の集約が必要ではないか（潜在的には存在するが、気づいていない情報の多さ）。</li> <li>市民交流センター内での相互連携によって多様な社会体験・発表の場を提供できないか（単なる利用にとどまらず、料理を身につける、ファッションを学ぶ、読み聞かせを通して子育てを体験する等）。</li> </ol>

第3章	事業運営方針	3-4	商店街との連携	
現状・課題		基本構想での位置づけ	調整方針 = 冊子になる部分	ワークショップでの議論
<p>・(仮称) くるべ市民交流センターとして、中心市街地の活性化について一定の役割を果たしていく必要がある。</p>		<p>・市民の交流やまちの賑わいを創出し、市民の活動を支える施設(構想P15)</p> <p>・近隣の商店街などと連携したイベントの実施などが可能な空間づくりが求められる(構想P19)。</p>	<p><b>中心市街地の活性化支援</b></p> <p><b>黒部市立地適正化計画を踏まえ、鉄道・バスの公共交通ネットワークの構築や居住誘導を図る。</b></p> <p><b>シニア世代の経験・知識を活かした若年層への支援・育成、新たな価値と地域力の創造拠点となり、若年層が成長し人々が躍動することなどで、活気ある中心市街地の再興を図る。</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 市民交流センター建設予定地は黒部市の中心市街地にかかるエリアであり、今後の商店街地域との連携は非常に重要である。</li> <li>2. 連携を考える際に、むしろ市民交流センターが市内のさまざまな活動を広報・告知・拡散する一助になるという可能性は考えられないか(例: デジタルサイネージ(電子看板)の導入等)。</li> <li>3. 市民交流センターから始まる活動を商店街でトライアル(お試し販売)するような連携の可能性はないだろうか(チャレンジショップほどの話ではない)。</li> <li>4. 市民交流センターから商店街への回遊を仕掛けていく仕組みが実現できないだろうか。</li> </ol>